(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号

特許第5116037号
(P5116037)

(45)発行日　平成25年1月9日(2013.1.9)　(24)登録日　平成24年10月26日(2012.10.26)

(51)Int.Cl.　F I
A63F 9/30 (2006.01)　A63F 9/30 502C
A63F 9/00 (2006.01)　A63F 9/00 512Z

請求項の数 3　(全 11 頁)

(21)出願番号　特願2008-283928(P2008-283928)
(22)出願日　平成20年11月5日(2008.11.5)
(65)公開番号　特開2010-110397(P2010-110397A)
(43)公開日　平成22年5月20日(2010.5.20)
審査請求日　平成23年10月3日(2011.10.3)

(73)特許権者　310009993
株式会社タイトー
東京都新宿区新宿六丁目２７番３０号
(74)代理人　100075247
弁理士　最上　正太郎
(72)発明者　原　文治郎
東京都渋谷区代々木三丁目２２番７号　株式会社タイトー内

審査官　植田　泰輝

最終頁に続く

(54)【発明の名称】景品獲得ゲーム機の景品載置台

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
少なくとも正面側が透明板で作製された直方体状のハウジング（１０）内に設けられ、プレイヤーが取得すべき多数の景品を載置する景品獲得ゲーム機の景品載置台において、
上記ハウジング（１０）の底面の左右の側辺に沿って前後方向に延びるよう設けられる一対の基礎レール（１２ａ，１２ｂ）と、
当該一対の基礎レール（１２ａ，１２ｂ）のそれぞれに少なくとも２本づつ取り付けられ、各基礎レールから略垂直に起立するように、かつ、下端が基礎レール上の任意の位置で固定可能なように取り付けられる垂直ポール（１４ａ－１，１４ａ－２，１４ｂ－１，１４ｂ－２）と、
左右一対の対向する垂直ポールの間に掛け渡されるブリッジバー（１６１，１６２，１７１，１７２）と、
各垂直ポール上の任意の高さの位置で固定可能なように取り付けられ、上記ブリッジバーの端部を保持するブリッジバー保持片（１５ａ－１，１５ａ－２，１５ｂ－１，１５ｂ－２）と、
を設けたことを特徴とする上記の景品獲得ゲーム機の景品載置台。
【請求項２】
軸直角断面がＬ字型のブリッジバー（１６１，１６２）を用いる請求項１に記載の景品載置台。
【請求項３】

軸直角断面が丸型のブリッジバー（１７１，１７２）を用いる請求項１に記載の景品載置台。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【０００１】

本発明は、クレーンゲーム機のような景品獲得ゲーム機内に設置される景品載置台に関し、特に、景品を３次元的に立体的に展示でき、自由度の高い展示形態が可能な景品載置台に関するものである。

【背景技術】

【０００２】

透明板で囲った直方体状のハウジング内部のプレイフィールドに多数の景品を積み重ねておき、機外から操作されるクレーンに取り付けた昇降可能な景品キャッチャーにより所望の景品を獲得できるように構成したクレーンゲーム機は、従来より広く普及し、多くの人に楽しまれている。

この種の景品獲得ゲーム機の内部に設置される景品載置装置として、景品載置部の高さを変更可能としてものが、例えば下記特許文献１に開示されている。

この特許文献１に記載の装置においては、ゲームフィールド昇降機構に設けた支持枠上にパネル部材を設置し、その上に景品を載置するようになっている。

従って、平板状のパネル部材の上に載置される多数の景品は平面状に並べられ、立体的に陳列しようとする場合には、下段の景品の上に別の景品を積み上げてゆくという方法しかなかった。

また、景品載置用のパネル部材の高さを変更することが可能であるのみで、載置部自体の構造を変化させることはできなかったので、景品の陳列形態のバリエーションに限界があった。

【０００３】

【特許文献１】特開２００６－０４３２８６号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【０００４】

本発明は、上記の問題点を解決するためなされたものであり、その目的とするところは、従来の如く景品を平面的に並べたり、単に積み重ねるだけではなく、上下方向、前後方向、斜め方向、その他、様々な形態の立体的で変化に富んだ陳列が可能となり、これにより、新たな形での景品獲得方法も可能となり、新規な景品獲得ゲーム機開発の可能性をももたらし得る景品載置台を提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【０００５】

上記の目的は、

少なくとも正面側が透明板で作製された直方体状のハウジング内に設けられ、プレイヤーが取得すべき多数の景品を載置する景品獲得ゲーム機の景品載置台において、

上記ハウジングの底面の左右の側辺に沿って前後方向に延びるよう設けられる一対の基礎レールと、

当該一対の基礎レールのそれぞれに少なくとも２本づつ取り付けられ、各基礎レールから略垂直に起立するように、かつ、下端が基礎レール上の任意の位置で固定可能なように取り付けられる垂直ポールと、

左右一対の対向する垂直ポールの間に掛け渡されるブリッジバーと、

各垂直ポール上の任意の高さの位置で固定可能なように取り付けられ、上記ブリッジバーの端部を保持するブリッジバー保持片と、

を設けたことを特徴とする上記の景品獲得ゲーム機の景品載置台によって達成し得る。

【０００６】

ブリッジバーとしては、軸直角断面がＬ字型のものや、丸型のものなど、景品の種類に

応じた形態のものを適宜選択若しくは混合して用いることが推奨される。

【発明の効果】

【０００７】

上記の如き構成であると、高さの同じ前後のブリッジバーの間や、高さの異なる前後のブリッジバーの間に各種景品を様々な姿勢で載せたり、引っ掛けたり、ブリッジバーの間に挟み込んだりすることができ、各ブリッジバーの両端の垂直ポールへの取付位置を変化させることにより、各ブリッジバーの左右方向の勾配を変えたり、右側手前から左側奥方向へ向けて懸架したりすることも可能であるので、従来の如く景品を単に平面的に並べたり、積み重ねたりするだけではなく、上下方向、前後方向、斜め方向、その他、様々な形態の変化に富んだ立体的な陳列が可能となるものである。

【発明を実施するための最良の形態】

【０００８】

以下、図面に示す実施例を参照しつつ、本発明を実施するための最良の形態について説明する。

図１は、内部に本発明に係る景品載置台を設置する透明ハウジングの一実施例を示す斜視図、

図２は、上記透明ハウジングを景品獲得ゲーム機の機台に固定するためのアングル材を示す斜視図、

図３は、透明ハウジングの底面の左右の側辺に沿って一対の基礎レールを前後方向に延びるよう取り付ける状態を示す説明図、

図４は、図３に示した基礎レールにレールカバーを取り付ける状態を示す説明図、

図５は、基礎レールとレールカバーの組合せ状態を示す斜視図、

図６は、基礎レール上に垂直ポールを取り付ける状態を示す説明図、

図７及び図８は、垂直ポールにブリッジバー保持片を取り付ける状態を示す説明図、

図９は、ブリッジバー保持片を取り付けるためのステムの構成を示す説明図、

図１０は、左右一対の対向する垂直ポールの間にブリッジバーを掛け渡すように取り付ける状態を示す説明図、

図１１は、軸直角断面がＬ字型のブリッジバーと、丸型のブリッジバーとを示す斜視図、

図１２及び図１３は、高さが同じに取り付けられた前後２本の軸直角断面Ｌ字型のブリッジバー間に景品載置用プレートを取り付けた状態を示す説明図、

図１４及び図１５は、高さの異なる前後２本の軸直角断面Ｌ字型のブリッジバーと軸直角断面丸型のブリッジバーとの間に直接景品を載置した状態を示す説明図、

図１６及び図１７は、高さが同じに取り付けられた前後２本の軸直角断面丸型のブリッジバー間に直接景品を引っ掛けて載せた状態を示す説明図である。

【０００９】

これらの図中、１０は透明ハウジング、１１ａ，１１ｂはアングル材、１２ａ，１２ｂは基礎レール、１２０，１２０はトラスねじ、１３ａ，１３ｂはレールカバー、１４ａ－１，１４ａ－２，１４ｂ－１，１４ｂ－２は垂直ポール、１４１はポール主体部、１４１０はガイド孔、１４２はステー、１４３，１４３はユリヤねじ、１４４はスライダー、１４５は止めねじ、１４６はステム、１４７はステム保持体、１４８は取付ねじ、１４９はキャップ、１５ａ－１，１５ａ－２，１５ｂ－１，１５ｂ－２はブリッジバー保持片、１６１，１６２はＬ字型ブリッジバー、１７１，１７２は丸型ブリッジバー、１８は景品載置用プレート、１９，２０は景品である。

【００１０】

これらの図により、本発明に係る景品載置台の組立て工程とその機能について説明する。

本発明に係る景品載置台は、少なくとも正面側が透明板で作製された直方体状のハウジング内に設置される。即ち、図１に示す実施例の場合、４側面及び底面がすべて透明板で作製された透明ハウジング１０内に設置される。

透明ハウジング１０の底部外面には、透明ハウジング１０を景品獲得ゲーム機の機台に固定するためのアングル材１１ａ及び１１ｂが取り付けられる。アングル材１１ａ及び１１ｂの一例は図２に示されている。

【００１１】

透明ハウジング１０の底面内側には、左右の側辺に沿って前後方向に延びるよう一対の基礎レール１２ａ，１２ｂが取り付けられる。

即ち、基礎レール１２ａ，１２ｂは、図３に示すように、それぞれ２個のトラスねじ１２０，１２０によって透明ハウジング１０の底面内側に固定される。

基礎レール１２ａ，１２ｂの溝内には、図４に示す如く、強度増強等のためレールカバー１３ａ，１３ｂがそれぞれ嵌め込まれる。基礎レール１２ａとレールカバー１３ａの拡大図は、図５に示す通りである。基礎レール１２ｂとレールカバー１３ｂについても同様である。

【００１２】

次いで、図６に示す如く、上記一対の基礎レール１２ａ，１２ｂのそれぞれには、少なくとも２本づつの垂直ポール１４ａ－１，１４ａ－２，１４ｂ－１，１４ｂ－２が取り付けられる。

即ち、垂直ポール１４ａ－１，１４ａ－２，１４ｂ－１，１４ｂ－２の下端に固着したステー１４２を、それぞれ３本のユリヤねじ１４３，１４３により、基礎レール１２ａ，１２ｂ上の任意の位置に固定することにより、各垂直ポールが基礎レールから略垂直に起立するように取り付ける。

垂直ポール１４ａ－１の具体例は図７に示されている。他の垂直ポール１４ａ－２，１４ｂ－１，１４ｂ－２についても同様であるので、ここでは垂直ポール１４ａ－１についてのみ説明する。

【００１３】

図７及び図８に示すように、垂直ポール１４ａ－１にはブリッジバー保持片１５ａ－１が、垂直ポール上の任意の高さの位置で固定可能なように取り付けられる。

即ち、垂直ポール１４ａ－１のポール主体部１４１の内部空間に、上下方向に移動可能なようにスライダー１４４が嵌め入れられ、ポール主体部１４１の側壁に明けたガイド孔１４１０を通じてスライダー１４４にねじ込まれた止めねじ１４５を締め付けることにより、スライダー１４４がポール主体部１４１上の任意の高さの位置で固定可能なようになっている。

スライダー１４４には、ステム保持体１４７が取り付けられ、当該ステム保持体１４７にステム１４６が保持され、ステム１４６の先端に取付ねじ１４８によってブリッジバー保持片１５ａ－１が取り付けられるようになっている。

図９には、スライダー１４４に対するステム保持体１４７の取付状態と、ステム保持体１４７に対してステム１４６が望ましくは所定の角度範囲内で揺動可能なように保持されるよう構成されることが示されている。このように構成することにより、後述するブリッジバーの取付角度の変化に対応することが可能となる。

ポール主体部１４１の頂部には、キャップ１４９が嵌め込まれる。

【００１４】

以上の如く構成された垂直ポール１４ａ－１等のブリッジバー保持片１５ａ－１等を利用して、景品を載置するためのブリッジバー１６１等が取り付けられる。

即ち、図１０に示す如く、左右一対の対向する垂直ポール１４ａ－１と１４ｂ－１との間には、それぞれのブリッジバー保持片１５ａ－２及び１５ｂ－２を利用してブリッジバー１６１が掛け渡され、もう一対の対向する垂直ポール１４ａ－２と１４ｂ－２との間には、それぞれのブリッジバー保持片１５ａ－１及び１５ｂ－１を利用してブリッジバー１６２が掛け渡されるようになっている。

この場合のブリッジバー１６１，１６２は、図１１に示すように、軸直角断面形状がＬ字型の部材であり、その両端のねじ孔を利用してブリッジバー保持片に固定する。

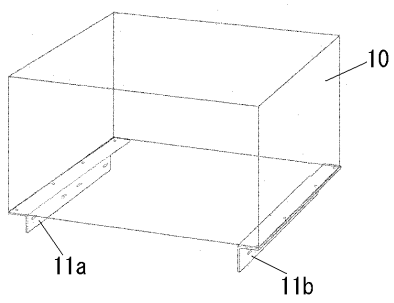
ブリッジバーの形状は軸直角断面形状がＬ字型のものに限らず、載置すべき景品の形態

に応じて、図１１に示すように、軸直角断面形状が丸型のブリッジバー１７１，１７２を用いることも可能である。
また、右から左まで同一形状のものでなくても、木の枝のように曲がったり、突起があるようなブリッジバーを用いることも可能であり、景品の形態に合わせて様々な形態のブリッジバーを取り付けることができる。
【００１５】
以下、図１２～図１７を参照しつつ、上記の如き構成の本発明に係る景品載置台を利用した、景品の各種載置形態について説明する。
図１２は、高さが同じに取り付けられた前後２本の軸直角断面Ｌ字型のブリッジバー１６１と１６２との間に、景品載置用プレート１８を水平に取り付けた状態を示しており、図１３は、図１２の状態をブリッジバーの軸に直角な面で切断した断面を示している。
このような景品載置用プレート１８を取り付けることにより、当該プレート上に従来と同様に各種景品を並べることができる。
また、ブリッジバー１６１と１６２との間隔を変えたり、両者の高さを変えたり、両ブリッジバーの両端の高さを変えたりすることにより、景品載置用プレート１８の奥行き幅を変更したり、景品載置用プレート１８の設置角度や傾斜を変更することが可能であり、それらに応じて景品の様々な載置形態が可能となる。
【００１６】
図１４は、高さの異なる前後２本の軸直角断面Ｌ字型のブリッジバー１６１と軸直角断面丸型のブリッジバー１７２との間に、箱に入れた景品１９を直接載置した状態を示しており、図１５は、図１４の状態をブリッジバーの軸に直角な面で切断した断面を示している。
このように、前のブリッジバー１６１を後のブリッジバー１７２よりも低くすることで、正面側から景品１９を見やすくすると共に、前のブリッジバー１６１を軸直角断面Ｌ字型のものとすることで、景品１９が滑り落ちるのを防止することができる。
また、このような載置の仕方をすることにより、景品をクレーンキャッチャーで取り易く見せることができたり、景品を上手く掴まないと、景品が落下して二度と取れなくなってしまうというスリル感を与えることが可能となる。
【００１７】
図１６は、高さが同じに取り付けられた前後２本の軸直角断面丸型のブリッジバー１７１と１７２との間に、縫いぐるみの景品２０を直接引っ掛けて載せた状態又は挟み込んだ状態を示しており、図１７は、図１６の状態をブリッジバーの軸に直角な面で切断した断面を示している。
このような載置の仕方をすることにより、前記と同様に、景品をクレーンキャッチャーで取り易く見せることができたり、景品を上手く掴まないと、景品が落下して二度と取れなくなってしまうというスリル感を与えることが可能となる。
【００１８】
なお、本発明は上記実施例に限定されるものではない。
即ち、図１２～図１７に示した実施例においては、いずれも２本のブリッジバーが互いに平行に取り付けられているが、左右のブリッジバー保持具の高さを異ならせることにより、ブリッジバーの左右方向の勾配を変えたり、或いはまた、右側手前から左側奥方向へ向けて斜めに懸架したりすることも可能であり、更にまた、ブリッジバー同士を交叉するように取り付けることも可能である。
また、上記実施例においては、基礎レール１２ａ及び１２ｂにそれぞれ２本の垂直ポールを取り付けたが、その本数は任意に変更可能である。
また、上記実施例においては、１本の垂直ポール上に１個のブリッジバー保持具しか取り付けなかったが、２個以上のブリッジバー保持具を取り付け、１本の垂直ポールで複数本のブリッジバーの端部を支承するように構成することも可能である。
従って、本発明は、特許請求の範囲に記載の範囲内において本明細書及び図面の記載から当業者が容易に想到し得るすべての変更実施例を包摂するものである。

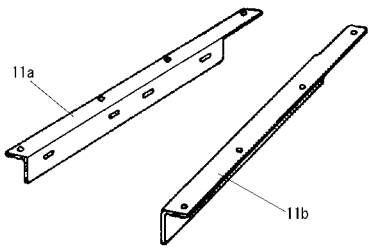
【産業上の利用可能性】
【００１９】
本発明は上記の如く構成されるので、本発明によるときは、高さの同じ前後のブリッジバーの間や、高さの異なる前後のブリッジバーの間に各種景品を様々な姿勢で載せたり、引っ掛けたり、ブリッジバーの間に挟み込んだりすることができ、各ブリッジバーの両端の垂直ポールへの取付け位置を変化させることにより、各ブリッジバーの左右方向の勾配を変えたり、右側手前から左側奥方向へ向けて懸架したりすることも可能である。また、図１２及び図１３に示すように、景品載置ラウプレートを用いる場合においても、２本のブリッジバー間の間隔を変えたり、両者の高さを変えたり、両ブリッジバーの両端の高さを変えたりすることにより、景品載置用プレートの奥行き幅を変更したり、景品載置用プレートの設置角度や傾斜を変更することが可能であり、それらに応じて景品の様々な載置形態が可能となる。
また、本発明に係る景品載置台は、既存の景品獲得ゲーム機の透明ハウジング内に取り付けられている既存の景品載置台と交換して利用することも可能である。
従って、本発明によるときは、従来の如く景品を平面的に並べたり、単に積み重ねるだけではなく、上下方向、前後方向、斜め方向、その他、様々な形態の変化に富んだ立体的な陳列が容易に可能となり、これにより、新たな形での景品獲得方法も可能となり、新規な景品獲得ゲーム機開発の可能性をももたらし得る景品載置台を提供し得るものであって、産業上多大の利用可能性を有するものである。
【図面の簡単な説明】
【００２０】
【図１】内部に本発明に係る景品載置台を設置する透明ハウジングの一実施例を示す斜視図である。
【図２】上記透明ハウジングを景品獲得ゲーム機の機台に固定するためのアングル材を示す斜視図である。
【図３】透明ハウジングの底面の左右の側辺に沿って一対の基礎レールを前後方向に延びるよう取り付ける状態を示す説明図である。
【図４】図３に示した基礎レールにレールカバーを取り付ける状態を示す説明図である。
【図５】基礎レールとレールカバーの組合せ状態を示す斜視図である。
【図６】基礎レール上に垂直ポールを取り付ける状態を示す説明図である。
【図７】垂直ポールにブリッジバー保持片を取り付ける状態を示す説明図である。
【図８】垂直ポールにブリッジバー保持片を取り付ける状態を示す説明図である。
【図９】ブリッジバー保持片を取り付けるためのステムの構成を示す説明図である。
【図１０】左右一対の対向する垂直ポールの間にブリッジバーを掛け渡すように取り付ける状態を示す説明図である。
【図１１】軸直角断面がＬ字型のブリッジバーと、丸型のブリッジバーとを示す斜視図である。
【図１２】高さが同じに取り付けられた前後２本の軸直角断面Ｌ字型のブリッジバー間に景品載置用プレートを取り付けた状態を示す説明図である。
【図１３】図１２の状態をブリッジバーの軸に直角な面で切断した断面による説明図である。
【図１４】高さの異なる前後２本の軸直角断面Ｌ字型のブリッジバーと軸直角断面丸型のブリッジバーとの間に直接景品を載置した状態を示す説明図である。
【図１５】図１４の状態をブリッジバーの軸に直角な面で切断した断面による説明図である。
【図１６】高さが同じに取り付けられた前後２本の軸直角断面丸型のブリッジバー間に直接景品を引っ掛けて載せた状態を示す説明図である。
【図１７】図１６の状態をブリッジバーの軸に直角な面で切断した断面による説明図である。
【符号の説明】

【００２１】
１０　透明ハウジング
１１ａ，１１ｂ　アングル材
１２ａ，１２ｂ　基礎レール
１２０，１２０　トラスねじ
１３ａ，１３ｂ　レールカバー
１４ａ－１，１４ａ－２，１４ｂ－１，１４ｂ－２　垂直ポール
１４１　ポール主体部
１４１０　ガイド孔
１４２　ステー
１４３，１４３　ユリヤねじ
１４４　スライダー
１４５　止めねじ
１４６　ステム
１４７　ステム保持体
１４８　取付ねじ
１４９　キャップ
１５ａ－１，１５ａ－２，１５ｂ－１，１５ｂ－２　ブリッジバー保持片
１６１，１６２　Ｌ字型ブリッジバー
１７１，１７２　丸型ブリッジバー
１８　景品載置用プレート
１９，２０　景品

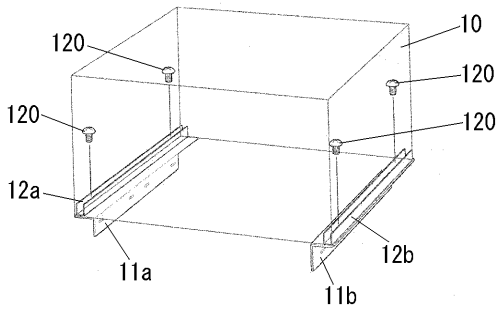
【図１】



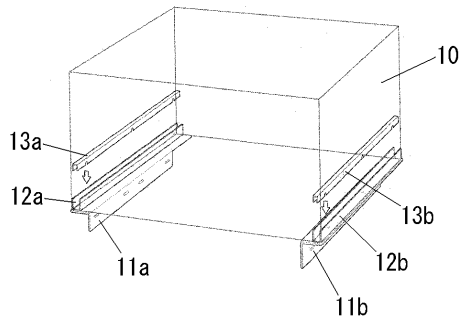
【図２】



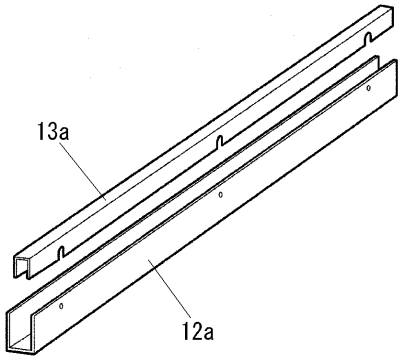
【図３】



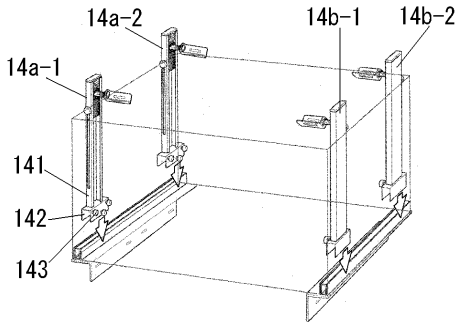
【図４】


10
13a
12a
11a
13b
12b
11b

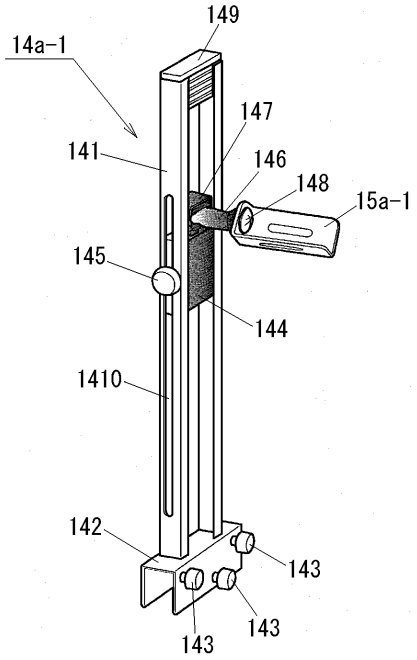
【図５】


13a
12a

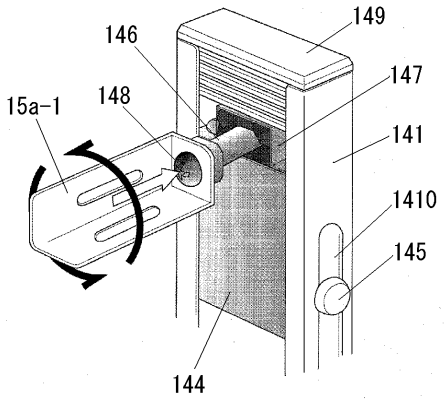
【図６】


14a-2
14b-1
14b-2
14a-1
141
142
143

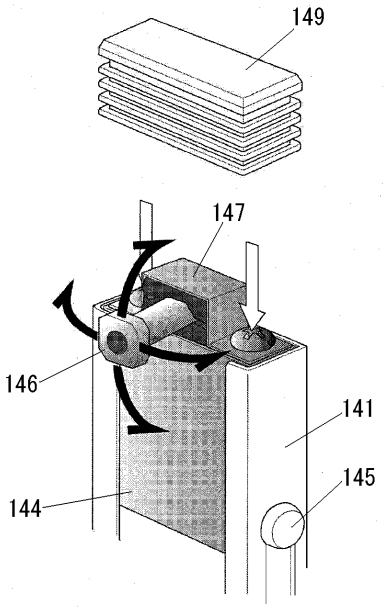
【図７】


149
14a-1
147
141
146
148
15a-1
145
144
1410
142
143
143
143

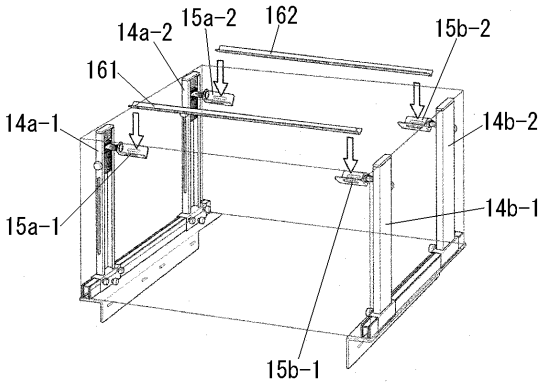
【図８】



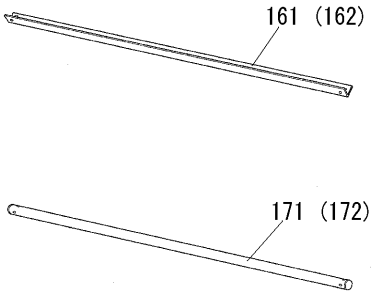
【図９】



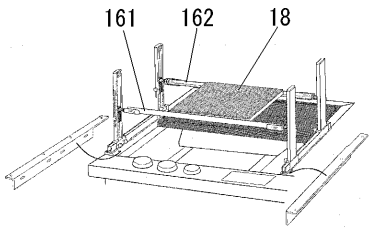
【図１０】



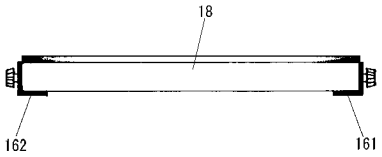
【図１１】



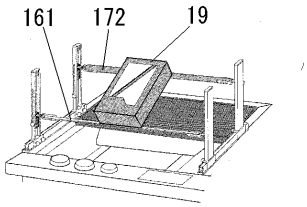
【図１２】



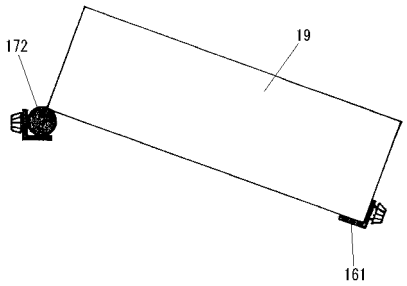
【図１３】



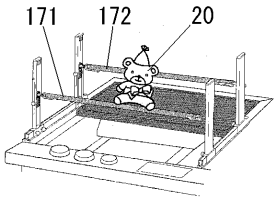
【図１４】



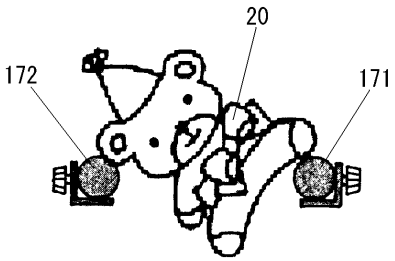
【図１５】



【図１６】



【図１７】



フロントページの続き

(56)参考文献 特開２００８－２００７８（ＪＰ，Ａ）
特開２０００－０４１８０４（ＪＰ，Ａ）
特開２００９－２２５５９（ＪＰ，Ａ）
次元を超えるフロアオプション ＣＬＥＮＡ－ＦＬＥＸ ３ＤＦＬＥＸＦＬＯＯＲ，株式会社バンダイナムコゲームス，２００８年 2月１５日，ＡＯＵ２００８アミューズメント・エクスポで配布されたパンフレット

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
Ａ６３Ｆ ９／００，９／３０，１１／００
Ａ４７Ｆ ５／１０